

## 手を携え、肩を組んで、 姫路のさらなる文化振興を



姫路市文化国際交流財団  
芸術監督

いけ べ しん いち ろう  
**池辺 晋一郎** さん

今年4月、姫路市文化国際交流財団の芸術監督に池辺晋一郎さんが就任しました。財団が実施する文化振興事業の方向性についての指導、助言など、総合的な監修を担います。

作曲家として世界的に高い評価を得ている池辺さんと姫路市とのかかわりは、市制100周年を記念して委嘱し、平成元年に初演された「交響詩ひめじ」に始まります。この作品は4章からなり、1章だけでも演奏可能なことから混声、女声、児童合唱でも演奏されてきました。同2年度からは合唱コンクールも開かれており、池辺さんは第1回から審査委員長を務めています。「いくつもの市に市制アニバーサリーということで作曲したが、姫路のように現在まで歌い継がれている例は非常に珍しく、合唱コンクールもどんどん水準が上がっていると感じる。作品は子どもと同じで、手を離れるとどんどん遠くへ行くもの。なのに30年も審査員としてかかわっていて、曲からすると『ずっとくっついてきやがって』と思っているでしょうね(笑)」と池辺さん。平成10年度から続く「姫路パルナソス音楽コンクール」(旧フレッシュコンサート)でも審査委員長を務め、「近隣の音楽大学からのエントリーも増え、一つのステイタスというか、若い演奏家の励みになっていると感じる」と話します。

芸術監督として財団の事業をより充実した、広がりのあるものにするために尽力したいと話します。「この30年間、姫路市に育てられたとされているので、文化を知る楽しさ、文化は心を豊かにするというのもっと浸透させる責務を感じている。文化が根付くためには歴史と時間が必要で、姫路のみなさんはそこをよくわかっておられる。姫路城や書写山圓教寺など、文化が生活に溶け込んでいて、みなさんその空気を吸っておられるからだと思う。音楽も『はい明日から』というのではなく、持続してこそ。みなさんと手を携え、肩を組んで進んでいきたい」。

また「姫路というまちで育まれる文化は本物であるべきだし、本物になるべき」とし、「新しいホールは市民のみなさんのためのもの。美術館や文学館のように『自分たちのもの』として見守ってほしい。ただ、良いホールで、良い音響で音楽を聴くだけが音楽じゃないとも考えている。野原でもまちかどでも、ドレスアップしてもサンダル履きでも、音楽は楽しめる。それを忘れずにいたい」と話します。

今年度(来年3月)の「交響詩ひめじ」演奏会は財団設立30年特別企画として池辺さんの指揮、関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏で開催されます。

### 表紙解説

姫路市立美術館

井田照一

《Series — In Front of, In Back of — 'Two Stones'》

昭和50年(1975)

市民ギャラリー「姫路市民美術塾『コレクションと対話する』」出品作品

会期：7月18日(水)～8月16日(木)まで

トレーシングペーパーに形の異なる小石と紙が置かれています。これらは実際に置かれているのではなく、リトグラフ(石版画)という版画の技法で刷られたイメージです。

作品の作者・井田照一は、この世界に「存在する」ということについて、版画によって考え続けた作家です。「Surface is the Between (表面は間である)」というコンセプトを生涯の制作活動の核とし、表面 (Surface) や線 (Line) の表す平面性と垂直 (Vertical) や水平 (Horizon) とその中間 (Between) にある存在を表現することに取り組み続け、平面上に立体物を描写する意味を問題提起し続けました。本作もその命題を基に制作された作品のひとつです。